

ライダーズ・イン・ザ・スカイ 第95号

新潟県央工業高校（旧三条工高）山岳部OB会発行 2020.10.10

1 今年のOB会 10月24日（土）に弥彦山で開催！

OB・現役親睦・弥彦山登山と山頂での総会

9:00 弥彦商工会駐車場集合・出発 表参道登山道より登ります

11:30 弥彦山頂大平園地の高頭仁兵衛寿像碑前に集合
(一般にいられている山頂御神廟ではありません。)

総会 記念撮影・昼食

12:00 解散(悪天であれば早くなるかも…)

弥彦商工会駐車場に集合・出発合図の後は自由登山。

山頂大平園地で集合をかけて総会、集合写真を撮って解散。

<補足> 9:00 弥彦商工会駐車場で合流もOK。

11:30 大平園地集合だけでもOK。ロープウェイを使って大平園地で合流もOK。
自動車でスカイラインを使って大平園地で合流もOK。家族連れ歓迎！

感染対策で
弥彦山山頂に集
合して総会。
正午に解散しま
す。

弥彦山頂大平園地

ロープウェイ山頂駅から山頂御神廟とは逆方向の多宝山に向かい、スカイラインを横断し、高さにして50m登ると碑と東屋がある広場に出る。360°の展望がきく。

高頭仁兵衛寿像碑 (たかとうにへいじゅぞうひ)

日本山岳会創立者の一人で初期の日本山岳会の会長になられた越後の生んだ岳界の巨人、高頭仁兵衛翁の寿像碑。明治10年三島郡深才村(現長岡市)に生まれ、明治39年日本山嶽志を公刊。この寿像は日本山岳会越後支部が昭和25年、弥彦山頂に建立。昭和35年、山頂社務所の改築のため大平へ移された。日本山岳会により毎年、高頭祭が開催され、歴代の日本山岳会の会長らが遺徳を偲んでいる。

申込み：出席の有無を10月20日（火）まで、いずれかの方法で連絡してください。

①同封のハガキ ②メール：webmaster@mtob.sakura.ne.jp

2 役員は以下のとおりです

会 長	広瀬守彦 (H07)	事務局住所・返信受け取り、総会担当
事務局長	川村浩貴 (H19)	総会担当
次長	吉田光二 (S46)	ライダーズ作成・発送・会計担当
顧 問	斎藤 勲 (S41)	ライダーズ担当

3 OB会会計報告 (2019年10月～2020年9月)

収 入		支 出		
費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	564,337	通信費	70,971	送料・葉書他
入会金	1,500	運営費	11,405	消耗品・HP運営他
2019年総会残金	4,471	総会費	0	
預金利息	4	現役助成	0	
雲天ツアー残	3,003	慶弔費	0	
収入合計	573,315	支出合計	82,376	
		収支残高	490,939円	次年度へ

繰越金の内訳：普通預金 490,939円

4 山岳部の山行報告 (OB会ホームページ掲示板から転載)

6月29日報告

たいへんご無沙汰しております、山岳部顧問の久住です。6月から学校が再開し、日常を取り戻しつつあります。

満身に活動紹介も出来ない中でしたが、今年度は4名の1年生が入部してくれました！毎日の活動にも大変元気に取り組んでくれ、顧問一同喜んでます。

さっそく弥彦山へ、またこの土曜日には浅草岳に行ってきました。いずれも好天に恵まれ、生徒は見たことのない景色に感動していました。「山登りは思っていたより大変だけれど、とても楽しいです！」という言葉も聞けて、正直ホッとしました。

まだコロナの影響で制限はありますが、現役山岳部・顧問一同頑張って活動していきます。どうぞ、今後とも応援よろしく願いいたします。



8月9日報告

お世話になっております、久住です。現時点で県内公立高校は、部活動での宿泊に規制があり、泊りでの登山に行けない状況です。はやく宿泊が許可されるといいのですが、状況を見るとまだ少しかかりそうですね。。。

8月7日(金)に1年生4名をつれて二王子岳に行ってきました

が、結果から言うと、体調不良とヒザの故障により三合目手

前で断念。元気な2名は消化不良だったようですが、アクシデントの際の対応や、天候がコロコロ変わる中

での雨具の脱ぎ着など、短い時間の中にも教えられることが多くあった登山になったと思います。めげずに次を目指してトレーニングに励んでほしいです。

5 現役報告

☆今年度の顧問 岡村孝先生 久住公彦先生 鈴木美奈子先生 松尾和浩先生 異動なし。

☆今年の部員数 1年生4名 2年生0名 3年生1名 まだまだピンチです!!

6 行ける範囲の百名山 OB会HP投稿から S43年卒 渡辺五郎

斜里岳 (1536m) 7月19日 (晴れ)

17日夕刻、仙台港を発ち18日の午前11時に苫小牧港に到着。

今回の北海道遠征、フェリーの移動を含めて9泊10日で日程を組む。

前半の天気が良くなったので釧路湿原を見学する計画を中止し苫小牧から道東の斜里登山口、清里町まで360kmの移動、道の駅「パパスランドさつつる」ここはお風呂とビールが飲める食堂があり車中泊する。午後8時からすぐ近くの小学校跡地で地元の地区のサプライズ打ち上げ花火が私を歓迎？する。

斜里岳の登山口、清岳荘から登る。ルートは沢の中で風が通り心地いいが歩きづらい。

地図のコースタイムとほぼ同じ、3時間半で山頂着。北東方向に知床の山々、明日登る羅臼を確認する。東側の根室海峡、雲の上に国後島の山々が連なり、北側にはオホーツク海を見下ろす。

下りのルートは尾根コース、眺望を楽しみながら登山口に向かう。

今夜の宿はウトロの岩尾別温泉にある「ホテル地の涯」ジョッキでサッポロクラシック、今日の慰労と明日のヒグマとの出会いの心配を忘れようと2杯も飲む。なぜかサッポロクラシックは缶や瓶よりジョッキが美味しいのだ！



中央が斜里岳

羅臼岳 (1661m) 7月20日 (晴れ)

今日は月曜日、登山者は少ないかと思っていたが賑やかだ。

木下小屋からの登山口を4時50分発、私より早い人達は多くいる様子だ。登山口のヒグマ目撃情報、登山ルートに7月に入り2件の目撃が書き込まれていた。考えていたより件数が少ないので少し安心する。

登山地図の説明で途中「ヒグマ出没頻度が非常に高い」場所が2ヵ所、樹林帯と大沢と呼ぶ見通しが良く雪解けが終わり草の芽が出てヒグマの餌場になりそうな場所であったが、登山者はほぼ同じくらいの時刻から歩き始め、時々人の気配、鈴の音、仲間との話声が聞こえる。

エゾツツジや大きな花のチシマノキンバイの咲く大沢を登りきるとフードロッカーのある羅臼平、広々して解放感を感じる。羅臼平から暫くすると岩場となり慎重に登る。

山頂着9時55分、とうとう来てしまった知床の山、羅臼岳！北東側は三ツ峰、硫黄岳から先の知床岳、その先はシレットコ、文字どおり地の涯なのだ。東には昨日より大きく見える国後島がどっしりと横たわり、北西側はオホーツク海、南西側には一昨年登った雌阿寒岳が遠くに、好天に恵まれ幸せの時間を過ごす。



チシマノキンバイ

知床の1日 7月21日（晴れ）

昨日の羅臼岳、出かける前から心配していたのは『山親父、ヒグマ』との出会いであった。

10時間を超える行動時間となったが、幸いその気配は全くなかった。考えて見れば、ヒグマが怖ければ北海道の人達は山を歩かないだろうし、札幌ナンバーを始め道内の他地域のナンバーの車が多く（レンタカーもあるだろうが内地の車は数台程度）皆、生き生きと山歩きを楽しんでいた。

私も一昨年の雌阿寒岳から今回の斜里岳と羅臼岳を好天の中無事に登頂をすることが出来、下山後ホテル地の涯で汗を流し漸く安堵感の中、道の駅「うとろ・シリエトク」車中、美味しいビールを飲むことが出来た。

今日は知床巡りで一日過ごす。最初はカムイワッカ湯の滝に向かう。アイヌ語で神の水というが酸性が強くて暖かい。次は知床五湖、高架木道を歩き一湖、羅臼岳から硫黄岳の山並みを湖面に映している。

そして今日のハイライト、知床岬巡りの観光船オーロラ号、4時間近い船旅、途中で絶滅危惧種の海鳥ケイマフリ、断崖が続くが岬は平坦な草地に赤い灯台が設けられていた。観光船は2隻で運用されていたが冬場は網走で流氷観光に使われている。

ウトロに戻り知床横断道路の知床峠、東の羅臼側はガスの中、ウトロ側は晴れの天気で海風の影響を受ける知床では知床の山並みの東と西で大きく違いが分かる。

峠から降り知床財団が運営する「知床自然センター」の見学、知床財団は知床の自然保護を目的とする財団、ここにあった知床のヒグマ情報は7月から毎日10数件、今日まで200件近くで人身事故はゼロ、と説明があった。

連泊する道の駅の隣に環境庁の「知床世界遺産センター」がありこの見学で一日を終えた。

この日まで好天が続き22日は層雲峡に雨の中向かったが、計画していた大雪のお鉢巡りは雨で中止、最終日は夕張市の「石炭博物館」で夕張、空知の歴史を学習、2日間日程を短縮して苫小牧港を発った。

編集注：渡辺五郎さんの「日本百名山」は残り二山（幌尻岳、宮之浦岳）を登って完登となります。



ヒグマ対策

7 巻機山の家が53年の歴史に幕を下ろします

昭和42年に竣工し、昭和59年から吉田が管理することになったことから、以降、三条工業山岳部が作業協力して維持を行ってきましたが、今秋をもって閉鎖して譲渡することになりました。

山の家は11月8日にアウトドアライターの森山さんに引き渡しが行われ、森山さんのゲストハウス



として新たに活用されます。

同封の「巻機山の家をあゆみ」にその歴史が記録されていますが、昭和 61 年の改修工事、ペンキ塗り、水確保のための水道工事、大雪での雪掘り、薪運びと、それぞれの年代で多くの部員から作業してもらいました。これまでのご協力に感謝申し上げます。

S 46 年卒・吉田光二

巻機山の家 譲渡の報告

「巻機山の家」は昭和 42 年に竣工以来今年で 53 年になり、今冬、煙突やガラスの破損、ベランダのシロアリ被害など様々なところで緊急補修の必要性が生まれました。雪解けを待って全面的な修繕を行なってまいりましたが、維持する事務局も高齢化し、高校山岳部の衰退によって作業ボランティアや利用者も壊滅的に減少しています。赤字の会計も含めてこれ以上の維持と運営が見込めない状況です。

ついては、地元に迷惑をおかけしないためには、余力のあるうちに取り壊しもやむなしと真剣に検討をしてきたところです。

このような状況下で、長年、管理をしていただいている雲天さんに相談していたところ、「巻機山の家」の現実を把握していただいた中で、小屋を壊さない状態で譲渡を受けていただける方を紹介していただきました。

その方は三条市出身のアウトドアライターの森山伸也さんです。これまで北欧徒歩遠征などを行い、現在は巻機山山麓の清水集落内に雲天さんの親戚の家を購入して奥さんと二人で住まわれていて、著書に『北緯 66.6° ラップランド歩き旅』（本の雑誌社）があります。奥さんの大森千歳さんもまたアウトドアライターであり、カメラマン、モデルとして活躍されています。アウトドア雑誌「PEAKS」9 月号に飯豊連峰縦走の記事を森山さんが書き、表紙と文中に大森さんが写した写真が掲載されています。

森山さんは雲天とも親しく、しかも、「巻機山の家」の創設会員で長年にわたって代表を務めていただいた故・望月力さん創業の(株)モチヅキの近所に実家を持ち、仕事の面でも(株)モチヅキと縁があります。このお二人であれば安心して活用をお願いでき、皆さんにもご理解を得られるものと考えております。

森山さんへの譲渡については雲天の小野塚和彦さんも地域の活性化にも繋げられると喜んでおられます。また、事務局としてもいろいろと考えた上での決断でもあります。

譲渡は今秋に行い、それをもって「巻機山の家」を解散することにいたしました。

そうしたことから、長い間、心の故郷として親しんでいただいた皆さんには誠に申し訳ありませんが、以降、「巻機山の家」は利用できなくなります。

以上、譲渡の報告をするとともにご理解をお願いいたします。

長い間のご愛顧に心から感謝申し上げます。

令和 2 年 10 月吉日

巻機山の家代表 長谷川一良 (S 45 年卒)

8 OB会ホームページも随時更新しています

「会員のひろば」にアクセスするための ID、パスワードは下記のとおりです。

念のため部外秘でお願いします。ID: / パスワード:

掲示板には部の山行報告やOBの登山報告などが投稿されています。皆さんも遠慮なく投稿してください。



巻機山の家 53年間の思い出をありがとう!

昭和42年創設
昭和61年増改築



編集：吉田光二 S46年卒